

産業日本語PF委員会の活動報告

—産業と日本語とのかかわりを広く検討する—

井佐原 均

産業日本語研究会世話人会代表
産業日本語プラットフォーム委員会委員長
豊橋技術科学大学 教授

産業と日本語（あるいは言語処理）

- 情報処理技術の発展
 - その技術を製品化する情報産業自体の競争力の強化
 - 情報処理技術をツールとして用いることにより、より広い産業における競争力の強化に資する
- 自然言語処理技術
 - 機械翻訳技術の発展は、
 - 機械翻訳システム単体としての競争力を高める
 - 他の産業におけるマニュアルや広報文書の翻訳の高精度化と効率化が実現されることにより、その産業の国際競争力の強化に寄与できる。

企業での取り組み

- ✓ マニュアル等の外部向け文書
 - ✓ 個別マニュアル、システムの説明、仕様記述
- ✓ 社内文書
 - ✓ ノウハウの文書化

- 分かりやすい・曖昧性の無い文書
- 英語化、多言語化
 - 海外拠点、海外市場
- 文書の定型化・規格化

産業日本語研究会

- 世話人会

- 顧問: 長尾 眞 (国立国会図書館 館長)

- 代表: 井佐原 均 (豊橋技術科学大学)

- 辻井 潤一 (マイクロソフトリサーチアジア)

- 橋田 浩一 (産業技術総合研究所)

- 山崎 誠 (国立国語研究所)

- 隅田 英一郎 (情報通信研究機構)

- 横井 俊夫

- (日本特許情報機構 特許情報研究所顧問)

産業日本語プラットフォーム委員会

- 特許版・産業日本語委員会が、これまでの検討に基づいて特許文書を中心とする活動をすることを踏まえて、
 - 産業日本語研究会は、より広く産業に関わる文書を対象とし、
 - 産業日本語プラットフォーム委員会は、産業日本語研究会の実働部隊として、新しい観点から活動を進める。
-
- 特許版産業日本語委員会
 - AAMT/Japio特許翻訳研究会

産業日本語プラットフォーム委員会

- 自然言語処理の第一線の研究者と、企業からの参加者による構成
- 産業と日本語とのかかわりを広く検討し、我が国の国際競争力を再び高めることを目指す。

産業日本語プラットフォーム委員会

- 委員長 井佐原 均 豊橋技術科学大学
- 委員 佐藤 理史 名古屋大学大学院工学研究科
- 委員 乾 健太郎 東北大学大学院情報科学研究科
- 委員 山本 和英 長岡技術科学大学電気系
- 委員 橋田 浩一 産業技術総合研究所
- 委員 古賀 勝夫 (株)クロスランゲージ
- 委員 潮田 明 (株)富士通研究所
- 委員 山田 明 (株)石田大成社
- 委員 森藤 淳志 JAPIO 特許情報研究所

H22年度活動

- 産業日本語における諸問題
 - 平易な文章とは？--日本語の基本語彙とテキスト診断
 - 産業日本語の「質」と「量」
 - 日英翻訳を意識した日本語作成プラットフォーム
 - 技術用日本語プラットフォームの開発に関するフィージビリティスタディ概要
- *産業日本語プラットフォーム開発に向けた考察*
 - 産業日本語の定義
 - 産業日本語プラットフォーム開発計画

機械翻訳の最近の動向

- 機械翻訳は既に実ビジネスで使われている
 - 外資系企業による英日翻訳の活用
 - 翻訳システム単体の能力⇒翻訳過程全体としてのサービスの提供
 - 企業内では文書をコントロールできる
 - 多言語に高精度に翻訳できる
 - 外国発の翻訳システムの台頭
 - 機械翻訳を初めとする、わが国の情報産業の競争力の低下
 - 日本語情報処理能力の相対的低下による、我が国産業全体の国際競争力の低下
 - 日本語処理(日本語から・への翻訳)精度が低い
 - 英語から多国語へは高精度
- ⇒我が国企業は製品情報の翻訳の速度、精度、費用で太刀打ちできない

TAUS

- Translation Automation User Society
 - Executive Forum
 - Translation in the 21st Century
 - Tokyo, April 19-20, 2012

言語の社会的役割

- 情報発信力が、ますます重要となっていく。
- 文書の作成・利用の効率化による競争力の強化
 - 個々の産業の活性化により、我が国全体の経済活動の活性化に直結
 - (新幹線などの)システムの輸出に関する競争力の強化

国際競争力強化にむけた 文書処理能力向上

- 規格化日本語・制限日本語
 - 日本語を何らかの形で制約し、文書解析の精度が上がるような、翻訳しやすい、あるいは検索しやすい文書を作成
 - ◆同時に人間にとっての「読みやすさ」も確保
 - テクニカルライティングとの連携
- 日本語の前変換（前編集）
- メタデータの付与による検索や情報獲得の高精度化
- 分かりやすいマニュアルを作るための日本語の書き方の指導

文書の作成と再利用

- 利用しやすい日本語を作る環境
 - 規格化言語＋テクニカルライティング
 - 文書執筆支援環境、機械翻訳、用語辞書、翻訳メモリ
 - ✓ 地域産業の国際競争力強化のための多言語情報発信支援の研究開発(総務省SCOPE)
- 文書を再利用する技術
 - バージョン管理
 - フォーマット
 - 文(章／書)の再利用

文書の再利用

- 文レベルの再利用
 - 文書メモリ
 - 語句の検索
- 文書スタイルの再利用
 - 項目・目次
- バージョン管理
 - 新旧バージョン間の管理技法

文書の再利用

- 再利用する言語レベル
 - 語彙、文節レベル
 - 句・節・文レベル
 - パラグラフ・ドキュメントレベル(スタイル)
 - オントロジーレベル

文書の再利用

- 再利用のプラットフォーム構成
 - 再利用データ格納(翻訳メモリ技術を含む)
 - 類似表現検索
- 再利用技術に基づく文書ライティング(具体例)
 - 和文マニュアル
 - ビジネス文書

今後に向けて

- テクニカルコミュニケーター協会
- DITAコンソーシアムジャパン
 - DITA Festa
- システム開発文書品質研究会(ASDoQ)

ASDoQ

- システムの開発文書（要求仕様書、アーキテクチャ設計書など）の文書品質を定義し、その計測手法を定め、文書化して普及させることをもって開発技術ならびに産業の発達に資する
 - 文書品質の提案
 - ソースコードに対しては、複雑度などの品質評価指標が定義されています。しかし、開発文書に対しては、ソースコード行数あたりのページ数などが提案されていた。ASDoQは、文書品質を研究し、評価指標を提案します。
 - 計測技術の研究
 - 文書品質の計測は、機械的だけではなく、人間が意味を読み取りながら行うことが想定されます。計測結果の信頼性を高めるために、計測技術に関する研究を行います。
 - 文書品質の普及
 - 文書品質の評価指標と計測技術を公開し、その普及に努めます。これにより、技術者の文書作成力の向上ならびに産業の発達に寄与します。

これから

- 産業日本語研究会の活動
 - 品質(基準・評価)
 - 資源(辞書・ツール)
 - 広報(シンポジウム)
- 皆様からのご意見をお待ちしております。